

## 無機固体化学

### 第 7 回 X線回折と結晶構造解析(2006/6/16)

#### 教科書

粉末 X 線解析の実際ーリートベルト法入門、中井泉、泉富士夫編著、朝倉書店、2002

#### 参考

#### X 線回折の基礎：

X 線構造解析、早稻田嘉夫、松原栄一郎著、内田老鶴圃、1998

結晶・準結晶・アモルファス、竹内伸、枝川圭一著、内田老鶴圃、1997

#### 粉末 X 線構造解析プログラム RIETAN2000

<http://homepage.mac.com/fujioizumi/index.html>

先週資料の説明

シャノンのイオン半径表について



一般的に IR(Effective ion radius)が使われる

ION	EC	CNSP	CR	'IR'			
Ac <sup>3+</sup>	5p	⑥	VI	1.26	1.12	r	
Ag <sup>1+</sup>	4d	⑩	II	0.81	0.67		
			IV	1.14	1.00	c	
			IV	◇	1.16	1.03	
			V	1.23	1.09	c	
			VI	1.29	1.15	c	
			VII	1.35	1.22		
			VIII	1.42	1.28		

## 単位胞体積の公式

$$V = abc \sqrt{\frac{1 - \cos^2 \alpha - \cos^2 \beta - \cos^2 \gamma}{+ 2 \cos \alpha \cos \beta \cos \gamma}}$$

$$a = \frac{b^* c^* \sin \alpha^*}{V^*}, \quad b = \frac{c^* a^* \sin \beta^*}{V^*},$$

$$c = \frac{a^* b^* \sin \gamma^*}{V^*}$$

$$\cos \alpha = \frac{\cos \beta^* \cos \gamma^* - \cos \alpha^*}{\sin \beta^* \sin \gamma^*}$$

$$\cos \beta = \frac{\cos \gamma^* \cos \alpha^* - \cos \beta^*}{\sin \gamma^* \sin \alpha^*}$$

$$\cos \gamma = \frac{\cos \alpha^* \cos \beta^* - \cos \gamma^*}{\sin \alpha^* \sin \beta^*}$$

$$V^* = a^* b^* c^* \sqrt{\frac{1 - \cos^2 \alpha - \cos^2 \beta - \cos^2 \gamma}{+ 2 \cos \alpha \cos \beta \cos \gamma}}$$

$$a^* = \frac{bc \sin \alpha}{V}, \quad b^* = \frac{ca \sin \beta}{V},$$

$$c^* = \frac{ab \sin \gamma}{V}$$

$$\cos \alpha^* = \frac{\cos \beta \cos \gamma - \cos \alpha}{\sin \beta \sin \gamma}$$

$$\cos \beta^* = \frac{\cos \gamma \cos \alpha - \cos \beta}{\sin \gamma \sin \alpha}$$

$$\cos \gamma^* = \frac{\cos \alpha \cos \beta - \cos \gamma}{\sin \alpha \sin \beta}$$

## 第7回講義レポート課題に関して

酸化アルミニウム  $\text{Al}_2\text{O}_3$  には複数の多形が存在し、その一つである  $\alpha\text{-Al}_2\text{O}_3$  の結晶構造は次のようになっている。

空間群： $R\bar{3}c$  (No.167, International Tables Vol.A)

晶系：菱面体晶

格子定数(菱面体格子)： $a = 0.512 \text{ nm}$ ,  $\alpha = 55.28^\circ$

原子の種類、部分座標(x, y, z)

Al 0.355      0.355      0.355

O 0.553      -0.053      0.25

(ア)  $\alpha\text{-Al}_2\text{O}_3$  の密度を調べよ。

(イ) 菱面体格子の単位胞には  $\text{Al}_2\text{O}_3$  の化学式量が2つ含まれている。菱面体格子の単位胞体積を求めよ。

下記の公式より： $V = a^3 \sqrt{1 - 3\cos^2 \alpha + 2\cos^3 \alpha} = 0.0845 \text{ nm}^3$

質量数： $M_{\text{Al}}=27.0$ 、 $M_{\text{O}}=16.0$

単位格子中の全原子の質量： $M_{\text{unit cell}} = (4 \times 27.0 + 6 \times 16.0) / N_{\text{A}} = 204 / 6.02 \times 10^{23} \text{ g} = 3.389 \times 10^{-22} \text{ g}$

密度 =  $4.01 \text{ g/cm}^3$

(ウ) 下は International Tables の  $R\bar{3}c$  の抜粋である。

$\alpha$ - $\text{Al}_2\text{O}_3$  の Al, O イオンはどの Wyckoff 位置に属するか。

また、その位置の多重度が組成と一致することを確認せよ。

Al (0.355, 0.355, 0.355) は  $x = y = z$  だから、4c 位置。

O (0.553, -0.053, 0.25) は

( $x, -x+1/2, 1/4$ ) に一致するから、6e 位置。

Al と O の位置の多重度は 4 と 6 であり、

$\text{Al}_2\text{O}_3$  の組成比 2:3 に一致する。

## Positions

Multiplicity,  
Wyckoff letter,  
Site symmetry

## Coordinates

12	<i>f</i>	1	(1) $x, y, z$	(2) $z, x, y$	(3) $y, z, x$
			(4) $\bar{y} + \frac{1}{2}, \bar{x} + \frac{1}{2}, \bar{z} + \frac{1}{2}$	(5) $\bar{x} + \frac{1}{2}, \bar{z} + \frac{1}{2}, \bar{y} + \frac{1}{2}$	(6) $\bar{z} + \frac{1}{2}, \bar{y} + \frac{1}{2}, \bar{x} + \frac{1}{2}$
			(7) $\bar{x}, \bar{y}, \bar{z}$	(8) $\bar{z}, \bar{x}, \bar{y}$	(9) $\bar{y}, \bar{z}, \bar{x}$
			(10) $y + \frac{1}{2}, x + \frac{1}{2}, z + \frac{1}{2}$	(11) $x + \frac{1}{2}, z + \frac{1}{2}, y + \frac{1}{2}$	(12) $z + \frac{1}{2}, y + \frac{1}{2}, x + \frac{1}{2}$
6	<i>e</i>	.2	$x, \bar{x} + \frac{1}{2}, \frac{1}{4}$	$\frac{1}{4}, x, \bar{x} + \frac{1}{2}$	$\bar{x} + \frac{1}{2}, \frac{1}{4}, x$
			$\bar{x}, x + \frac{1}{2}, \frac{1}{4}$	$\frac{1}{4}, \bar{x}, x + \frac{1}{2}$	$x + \frac{1}{2}, \frac{1}{4}, \bar{x}$
6	<i>d</i>	$\bar{1}$	$\frac{1}{2}, 0, 0$	$0, \frac{1}{2}, 0$	$0, 0, \frac{1}{2}$
			$\frac{1}{2}, 0, \frac{1}{2}$	$0, \frac{1}{2}, \frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}, \frac{1}{2}, 0$
4	<i>c</i>	3.	$x, x, x$	$\bar{x} + \frac{1}{2}, \bar{x} + \frac{1}{2}, \bar{x} + \frac{1}{2}$	$\bar{x}, \bar{x}, \bar{x}$
			$x + \frac{1}{2}, x + \frac{1}{2}, x + \frac{1}{2}$		
2	<i>b</i>	$\bar{3}$ .	$0, 0, 0$	$\frac{1}{2}, \frac{1}{2}, \frac{1}{2}$	
2	<i>a</i>	32	$\frac{1}{2}, \frac{1}{2}, \frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}, \frac{1}{2}, \frac{1}{2}$	

### 3-3. 波の回折と X 線

結晶による波の回折：ブラッグ反射

結晶の格子定数に近い波を入射：

波長～数 Å：X 線

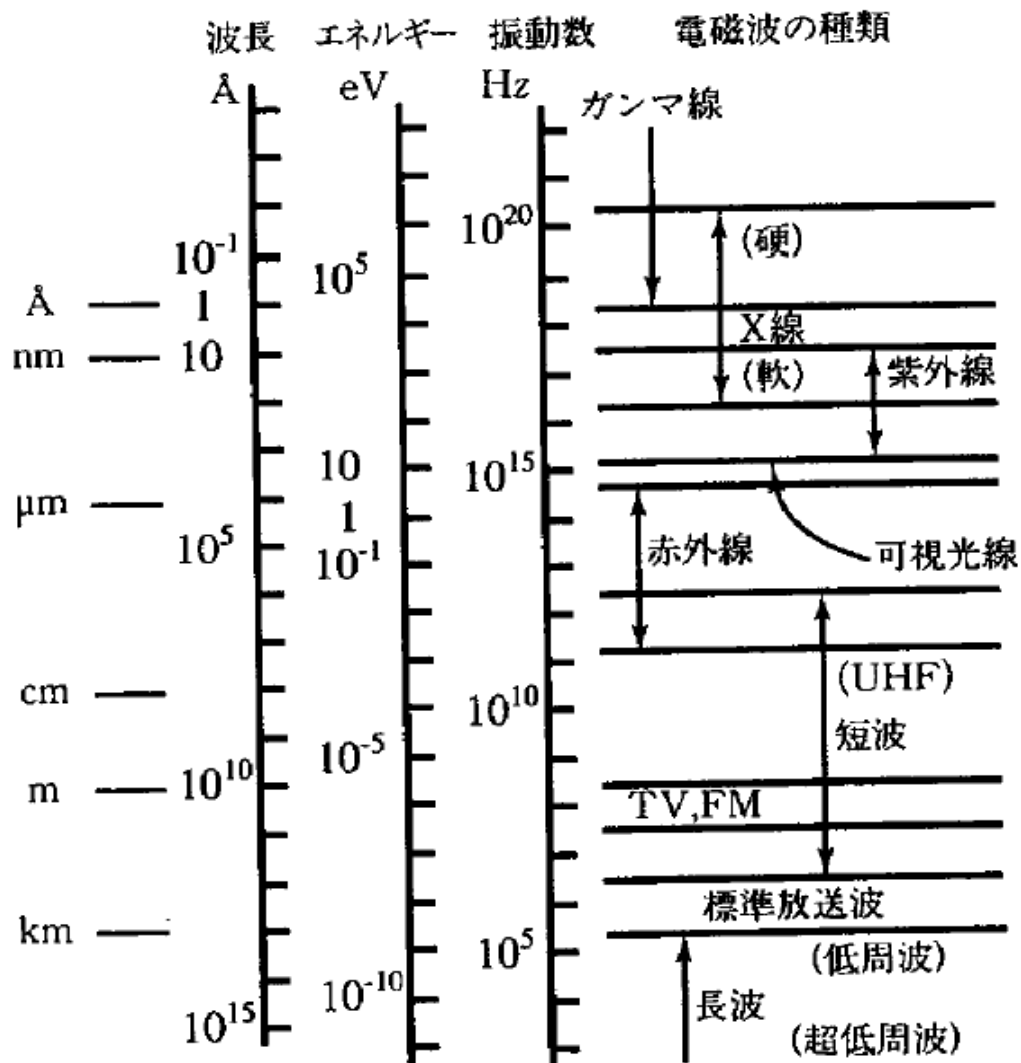


図 1.1 電磁波の分類.

### 3-4. X線の発生と検出、計数

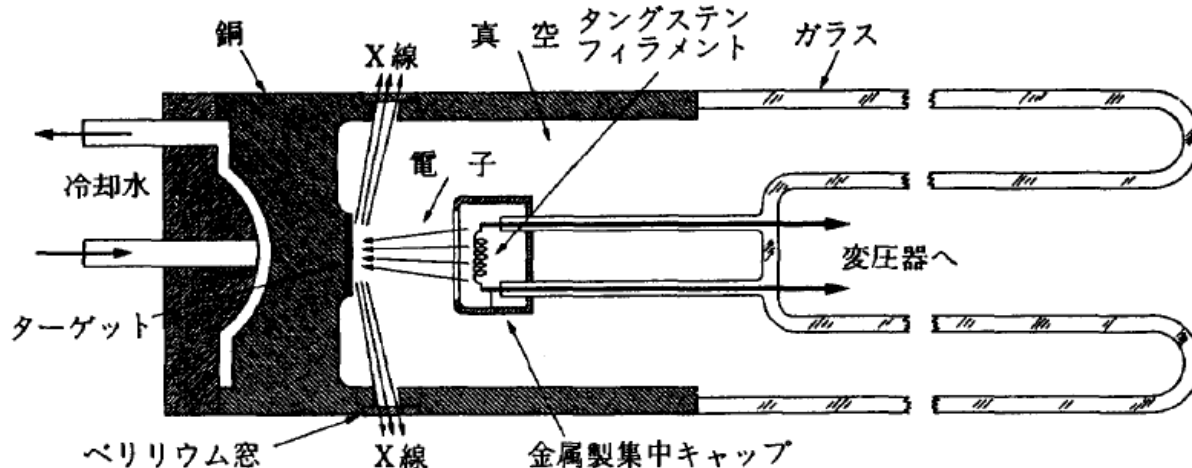


図 1-15 封じ込みフィラメントX線管の断面.

電圧で電子を加速し、重原子のターゲットに衝突させる： $E(\text{eV})=1240/\lambda(\text{nm})$

制動放射：連続 X 線

電子励起：内殻電子準位間の遷移により X 線を放射（特性 X 線）

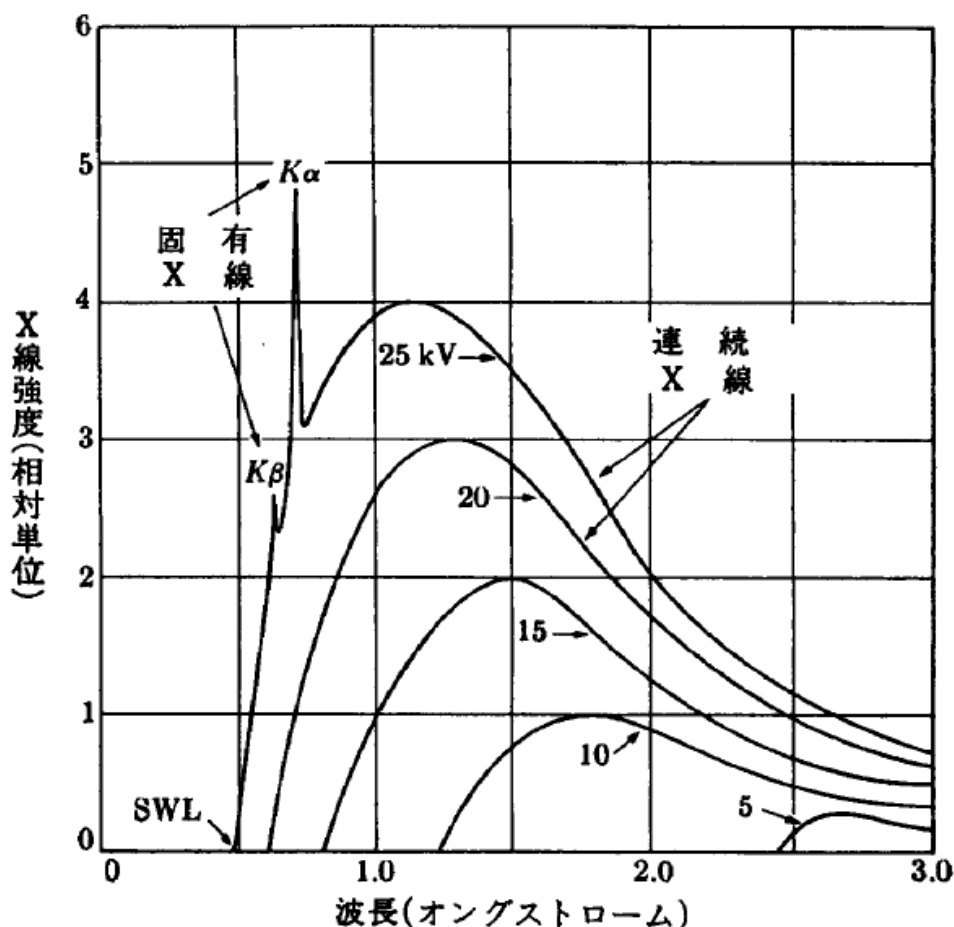


図 1-4 電圧の関数として示されているモリブデンの X 線スペクトル. 固有線の幅は実際はもっと狭い.



実験室でよく使う X 線

Cu K $\alpha$  線

Mo K $\alpha$  線

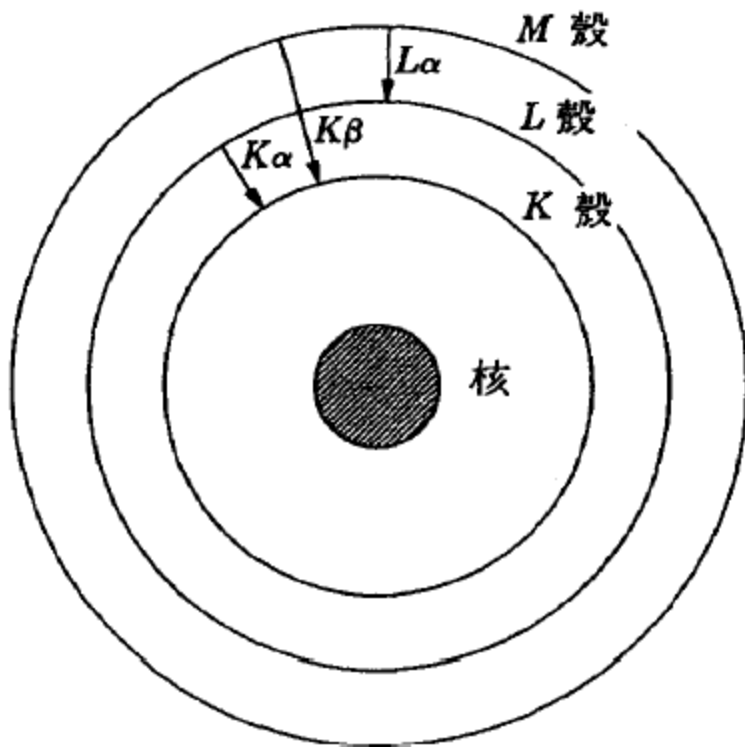


図 1-7 原子内での電子の移行. X線の放出は矢印で示されている.

## X 線の検出 (計数)

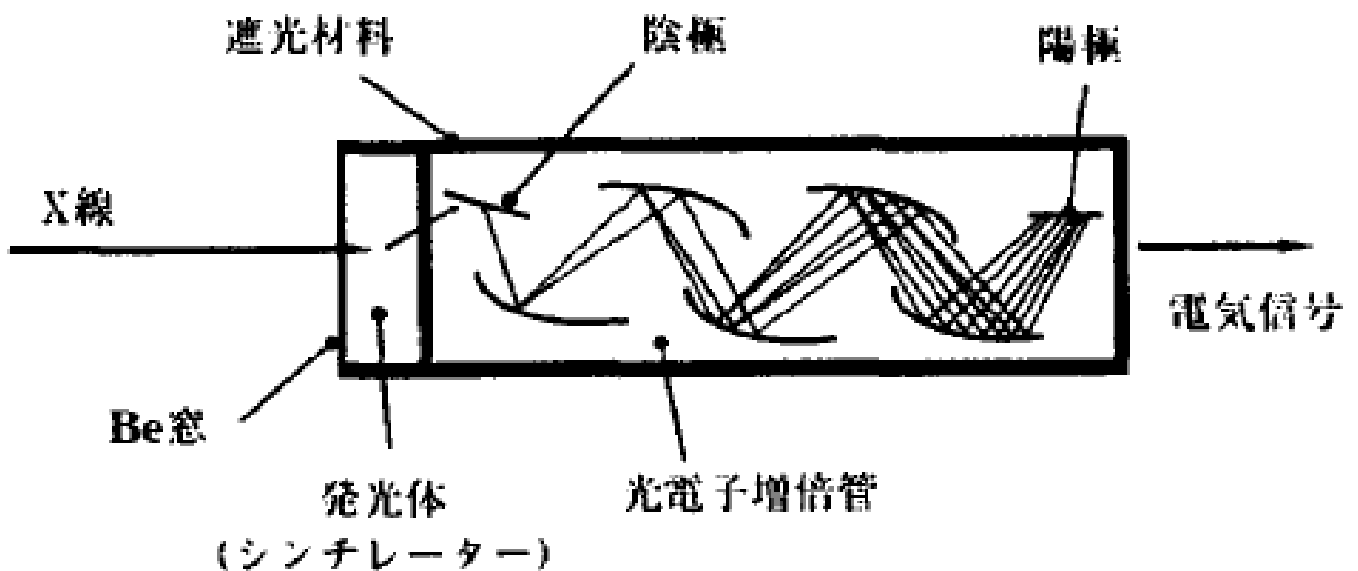
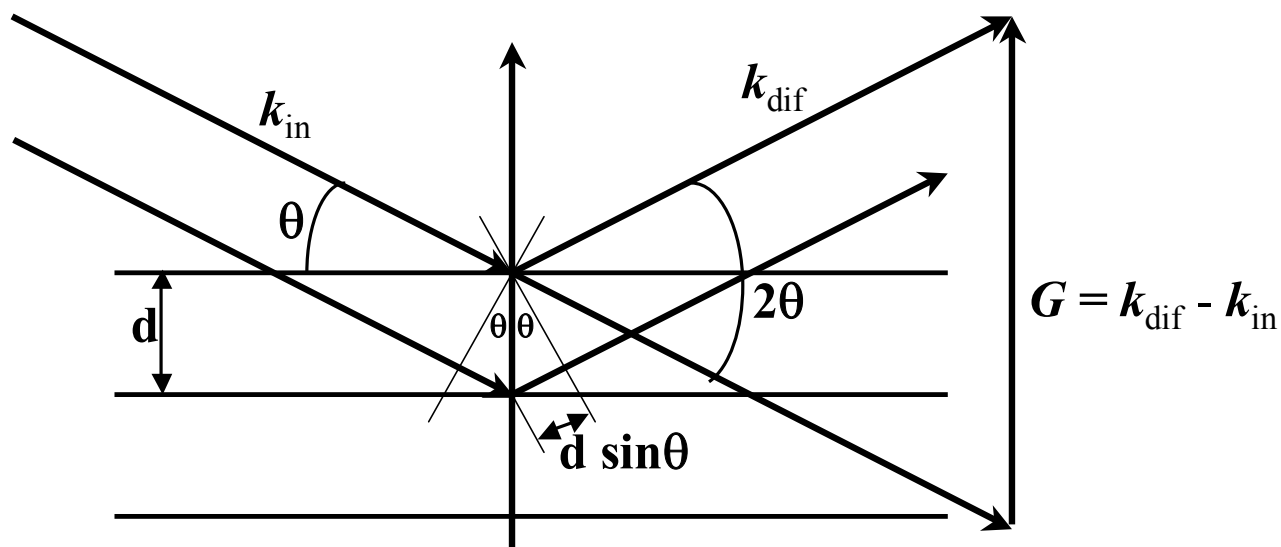


図 2.22 シンチレーション計数管の構造

### 3-6. X線の回折：ブラッグの回折条件



ブラッグの回折条件

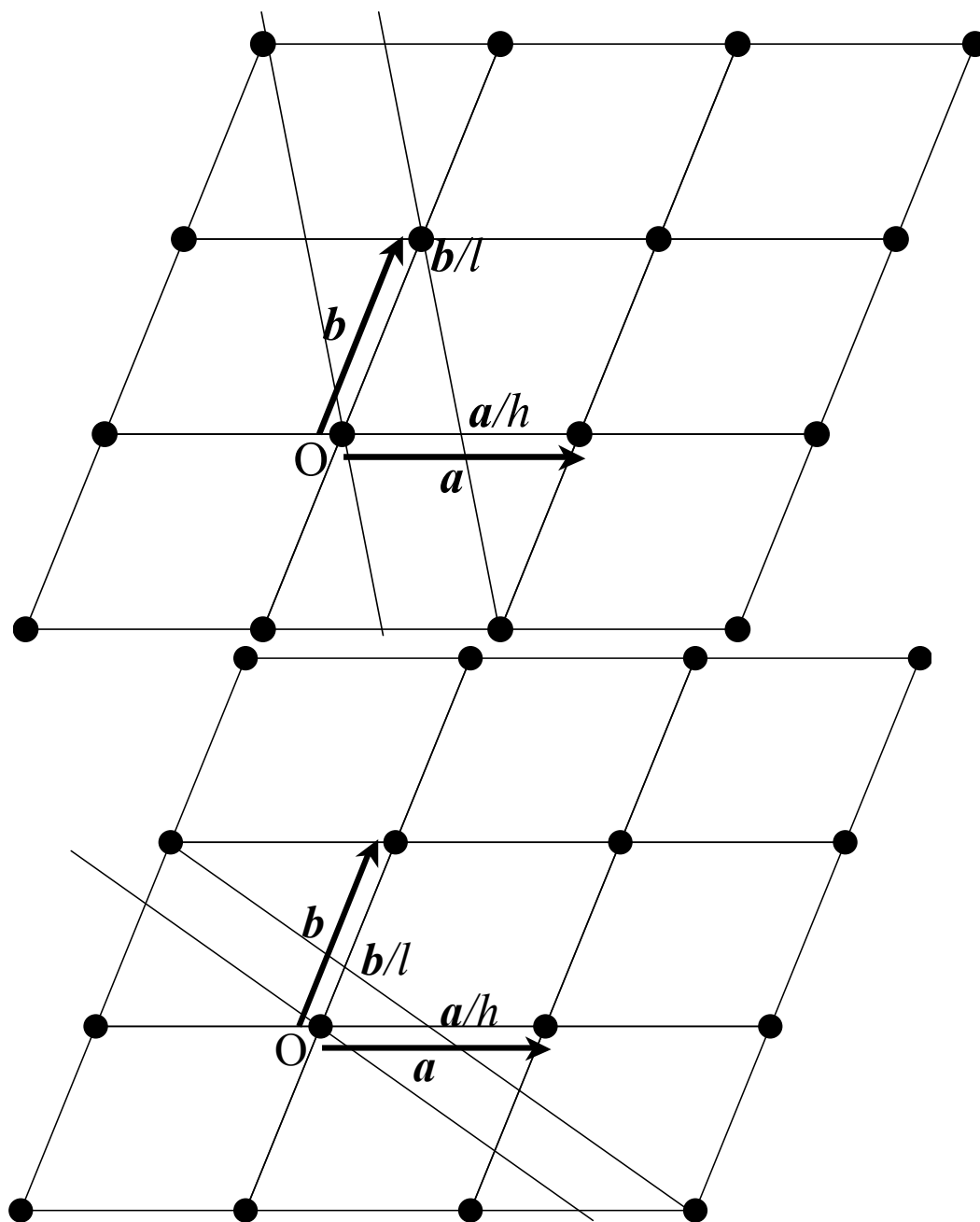
$$2d \sin \theta = n \lambda \quad (n=1,2,3 \dots)$$

$$2d_n \sin \theta = \lambda$$

と書き、面間隔  $d_n = d/n$  を導入する。

### 3-7. 結晶格子の面、方位の表現方法：ミラー指数

#### 2次元格子における面の例



### 3次元の場合

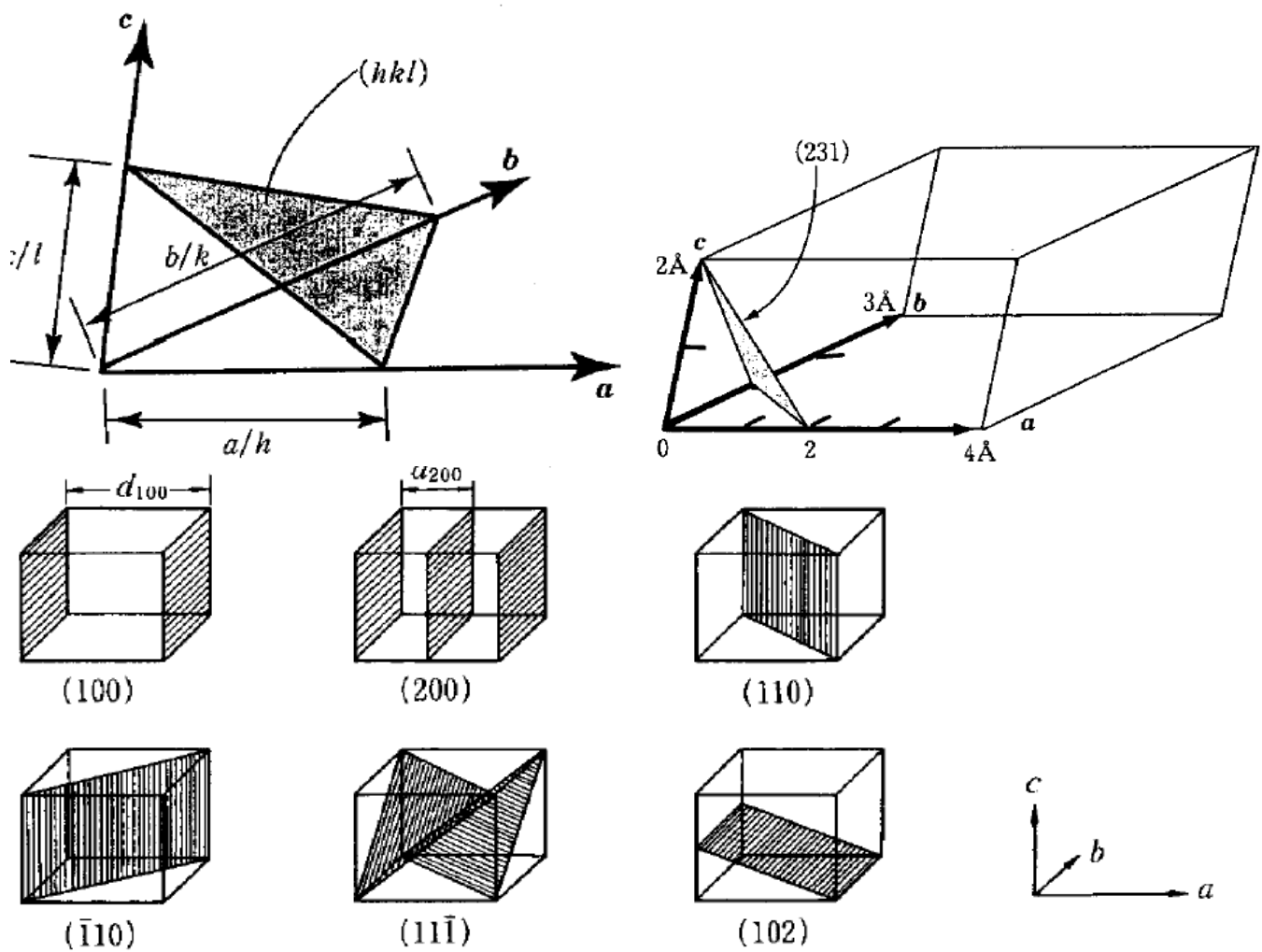


図 2.2.7 格子面を表すミラー指数の例

単位格子の  $a$  軸,  $b$  軸,  $c$  軸と  $a/h$ ,  $b/k$ ,  $c/l$  の座標で交わる面:  $(hkl)$ 面

$h, k, l$ : ミラー指数

面が軸に平行: ミラー指数を 0 にする

指数が負になる場合:  $(\bar{1}00)$

2桁以上の指数:  $(1\underline{12}3)$ ,  $(1,12,3)$ ,  $(1 \ 12 \ 3)$

- $(nh\ nk\ nl)$ 面は $(hkl)$ 面に平行
- 格子面間隔：原点から面までの距離
- $(nh\ nk\ nl)$ 面の格子面間隔は $(hkl)$ 面の  $1/n$

六方晶の場合の表示：ミラー–ブラベー指数  
対称関係がわかりやすくなるようにする

$(hkil)$ 面、 $i = -h-k$

### 3-8. 座標、面、指数の表現

$(hkl)$ : 面をあらわす

$\{hkl\}$ : 等価な面の集合（型面）をあらわす

$hkl$ : 後述するが、回折指数をあらわす。  
逆格子点の座標と同じ指数になる。

$[uvw]$ : 方向や軸を表す場合には、格子定数を単位としたベクトル成分の最も簡単な整数比  $u, v, w$  を使って  $[uvw]$  とあらわす。

$\langle uvw \rangle$ : 等価な方向や軸の集合（型方向）をあらわす。

$u, v, w$ : 格子点の座標

### 3-9. 良く使われる回折系

#### a) Laue 法

透過 Laue 法

背面(反射)Laue 法

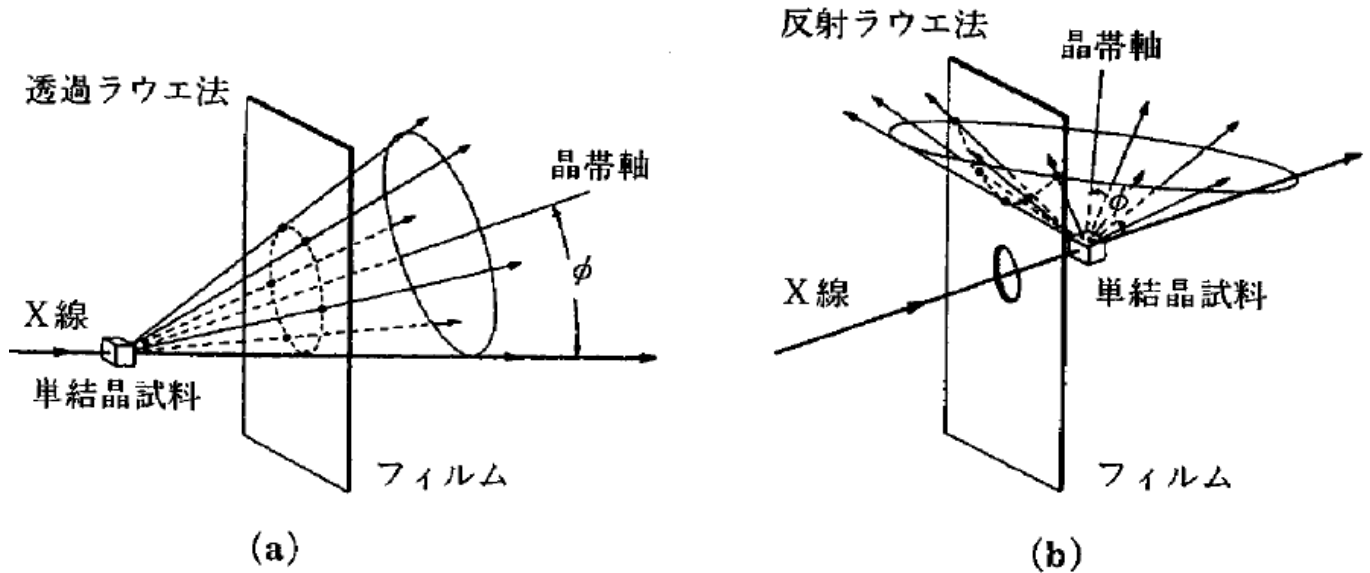


図 8.10 (a)透過ラウエ法および(b)背面反射ラウエ法の概念図およびそれぞれの回折パターン。

連続 X 線 (点状の平行 X 線)

単結晶試料

結晶面の同定

対称性の判断

## b) Debye-Scherrer 法

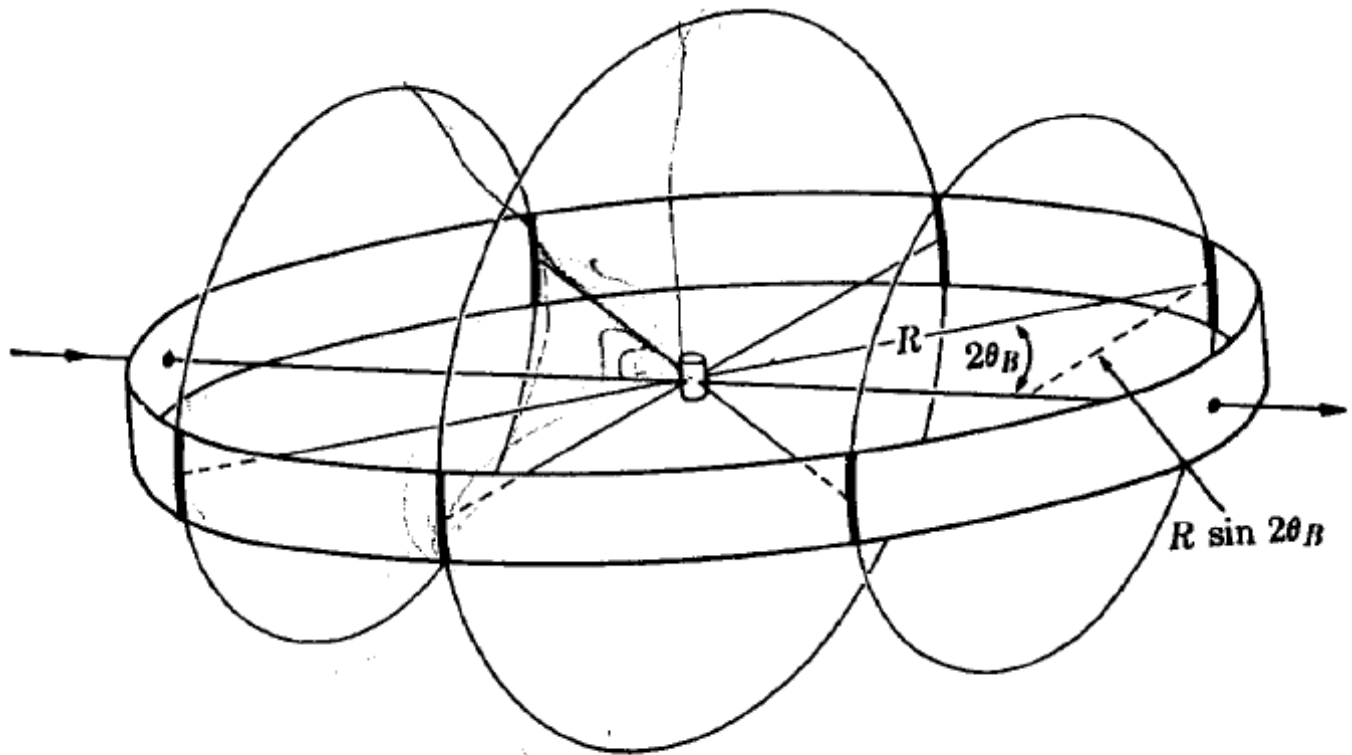


図 4-16 回折X線の円錐と Debye-Scherrer フィルムの交線.

特性 X 線 (線上の平行 X 線)

粉末試料 (キャピラリーに入れる)

格子面間隔の測定

構造解析

現在は放射光を用いた装置などで使われる



c) ブラッグーブレクターノ型集中光学系  
円周角の定理を利用

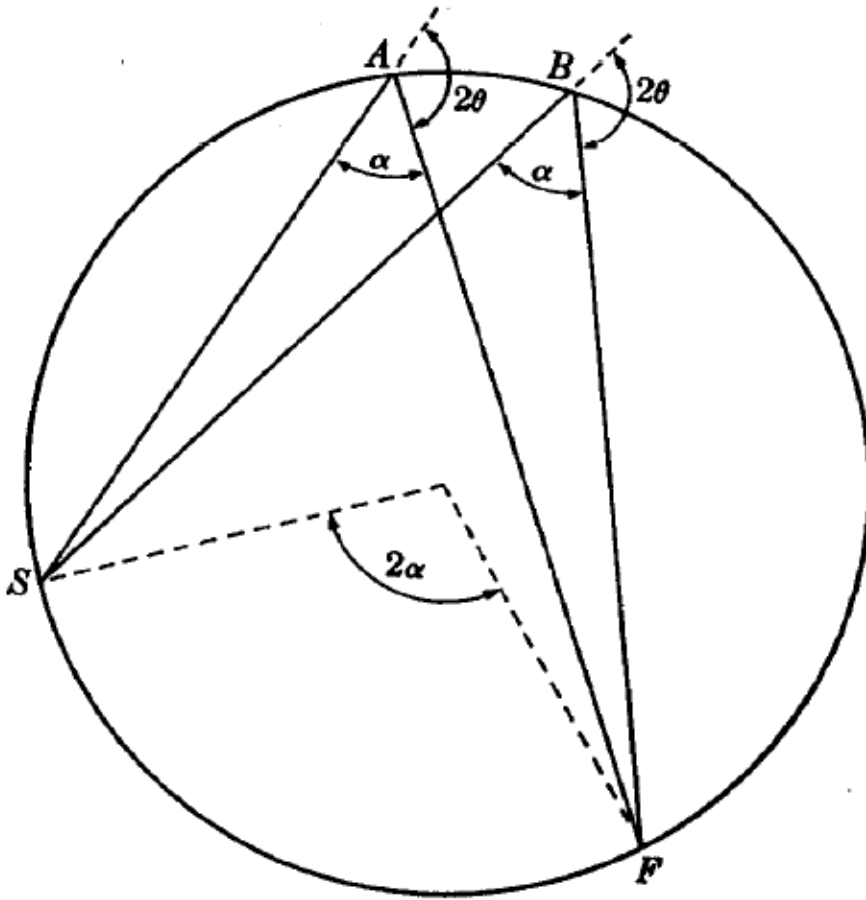


図 6-6 集中カメラの幾何学的関係.

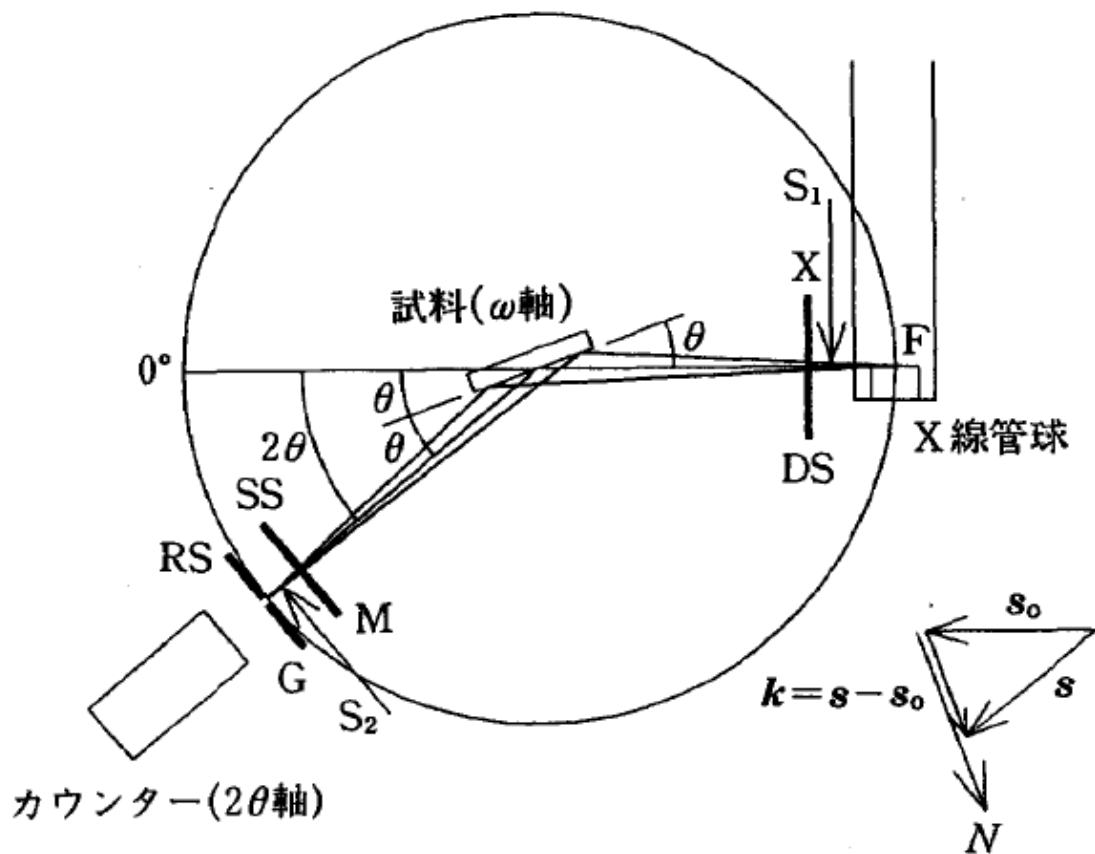


図5.1 ディフラクトメータの概念図.

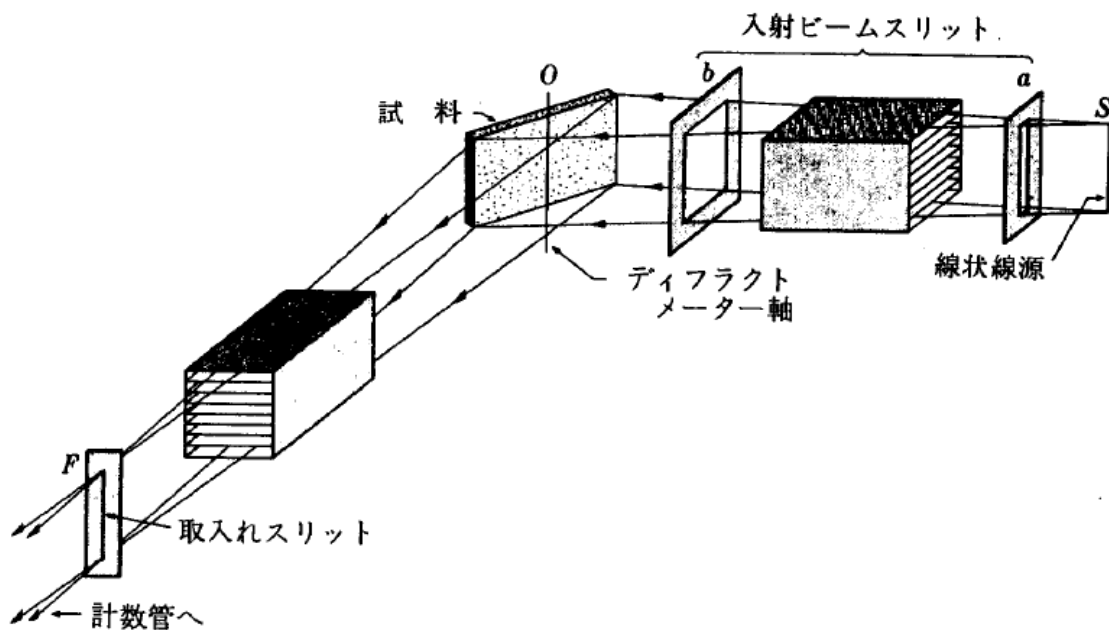


図7-8 ディフラクトメーターのスリットの配置.

分解能と回折強度のバランスが良い  
実験室装置の基本

特性 X 線（線状の発散 X 線）

粉末試料（平板状）

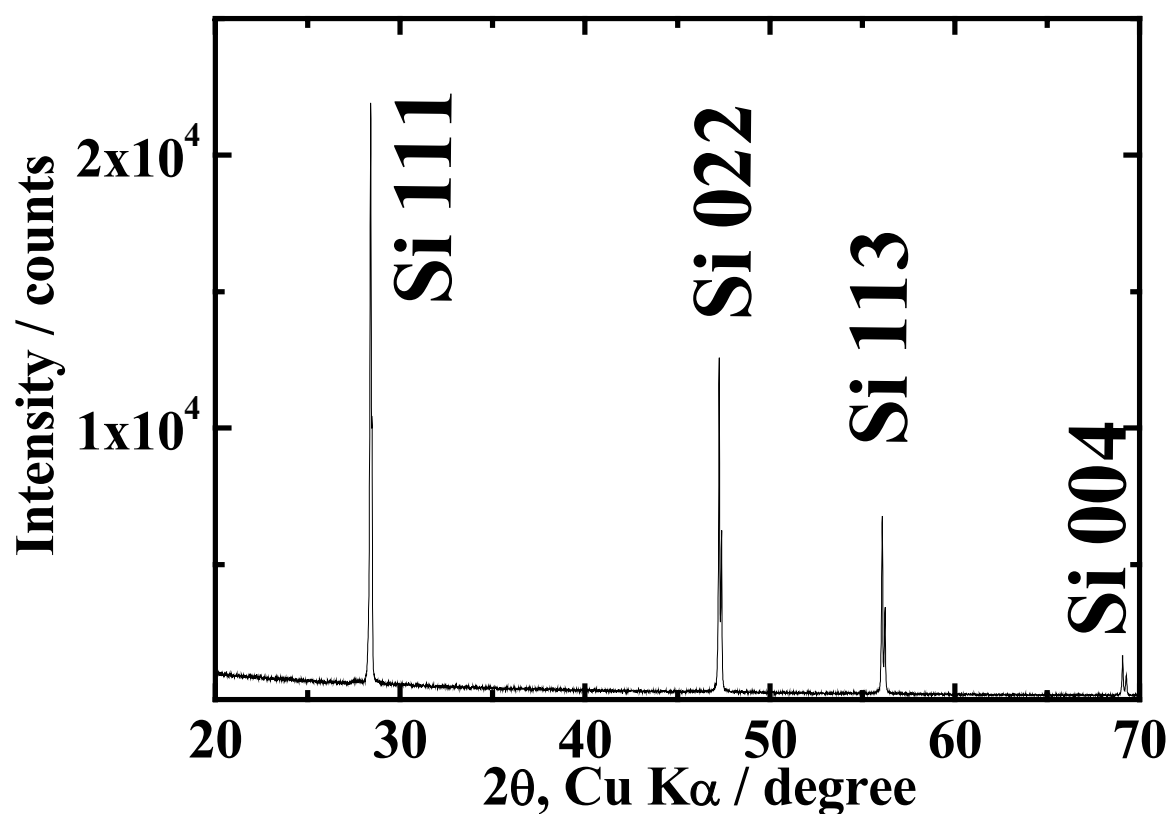
構造同定

格子定数の測定

構造解析

$2\theta$  軸 /  $\omega$  軸（ $\theta$  軸）

集中光学系では  $\omega = 2\theta / 2$

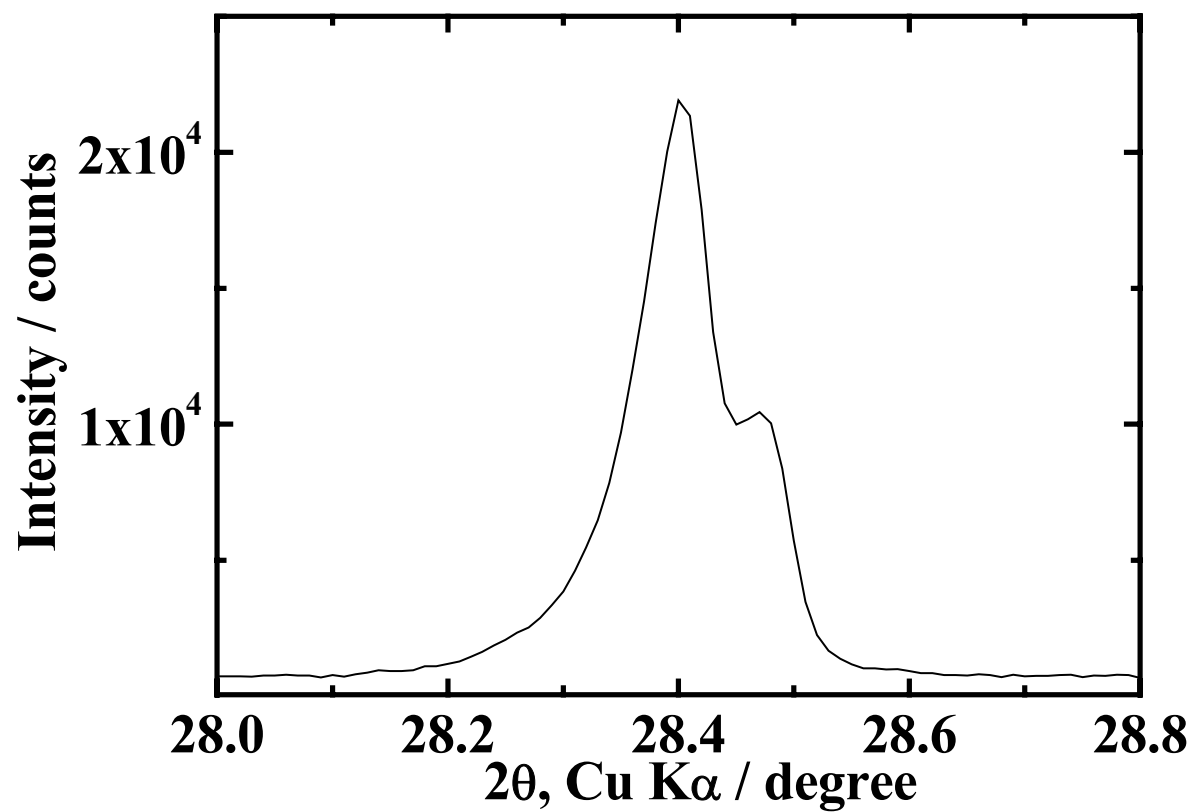


Si の XRD 図形

$l$  が 4 の倍数の  $00l$  回折線のみ観測

非混合指数が出ていない

# Cu $K_{\alpha 1}$ 線と Cu $K_{\alpha 2}$ 線による回折線



d) ギニエ(Guinier)光学系

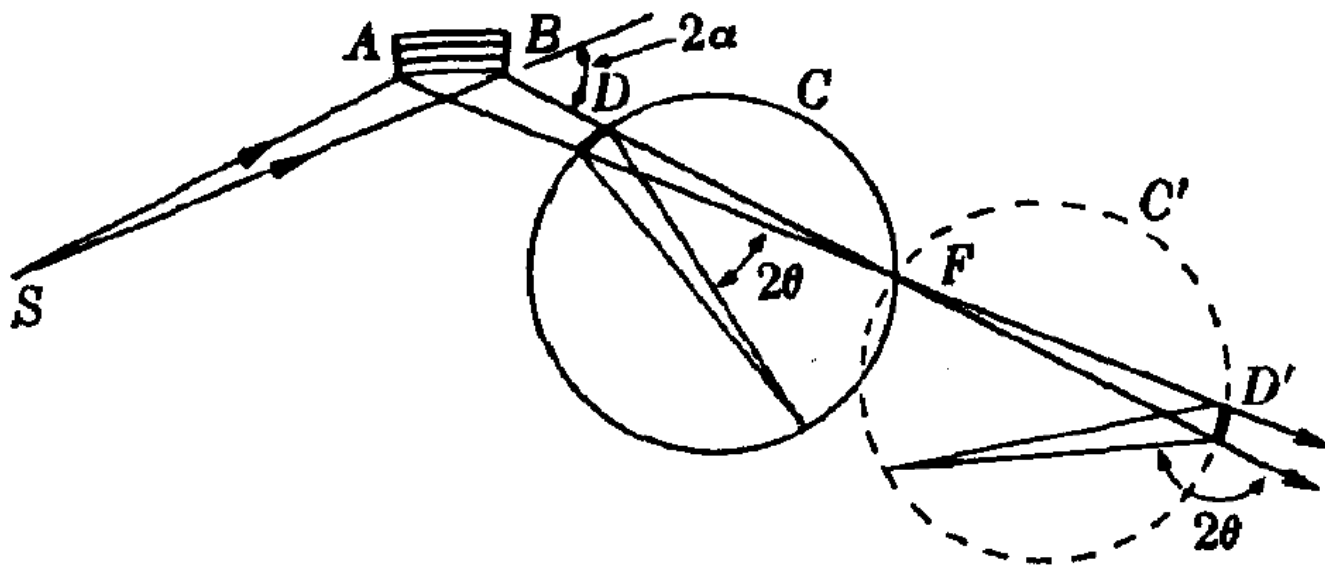


図 6-16 集中モノクロメーターとともに使われるカメラ。ただ1本の回折ビームのみを示す。Guinier [G. 10]による。

ブラッグーブレクターノの集中光学系

+

モノクロメータ

現在主流の光学系

### 3-10. 面間隔と逆格子

ブラッグの回折条件

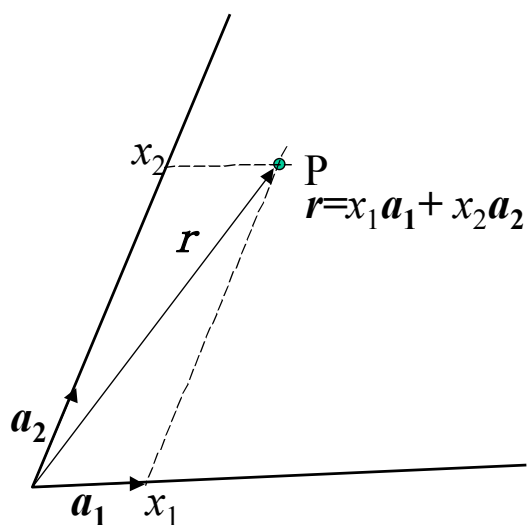
$$2d_{hkl} \sin \theta = \lambda$$

$d_{hkl}$  はどのようにして計算できる？

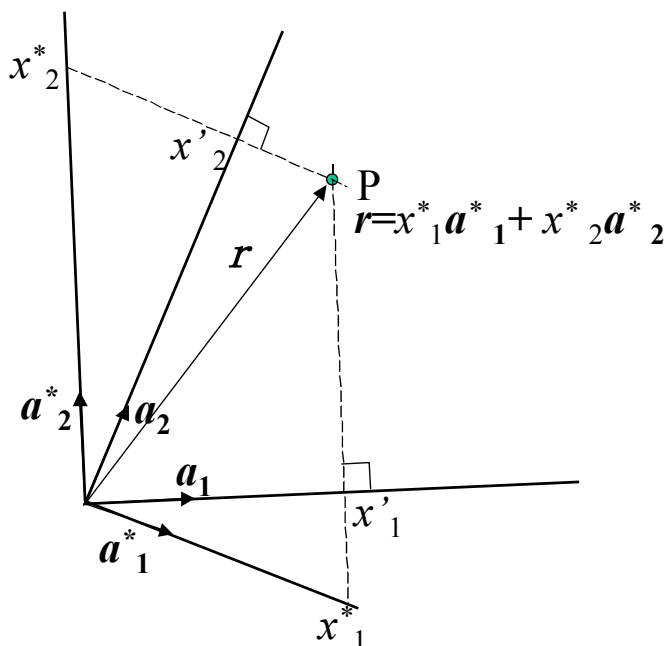
立方晶の場合： $d_{hkl} = a / \sqrt{h^2 + k^2 + l^2}$

## 2つの座標の定義の仕方

座標1



座標2



座標 1 : 点 P から基本ベクトルに平行  $(x_1, x_2)$

座標 2 : 点 P から基本ベクトルに垂直  $(x_1^*, x_2^*)$

$$\mathbf{r} = x_1 \mathbf{a}_1 + x_2 \mathbf{a}_2$$

$\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  に直交する基本ベクトル :  $\mathbf{a}_1^*, \mathbf{a}_2^*$

$$\mathbf{r} = x_1^* \mathbf{a}_1^* + x_2^* \mathbf{a}_2^*$$

### 3-11. 逆格子

実格子の基本ベクトル( $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ )に  
垂直なベクトル( $\mathbf{a}_1^*, \mathbf{a}_2^*, \mathbf{a}_3^*$ )

$$\mathbf{a}_k^* = \frac{\mathbf{a}_i \times \mathbf{a}_j}{\mathbf{a}_k \cdot (\mathbf{a}_i \times \mathbf{a}_j)}$$

$$\mathbf{a}_i \cdot \mathbf{a}_j^* = \delta_{ij}$$

固体物性：

$$\mathbf{a}_k^* = 2\pi \frac{\mathbf{a}_i \times \mathbf{a}_j}{\mathbf{a}_k \cdot (\mathbf{a}_i \times \mathbf{a}_j)}$$

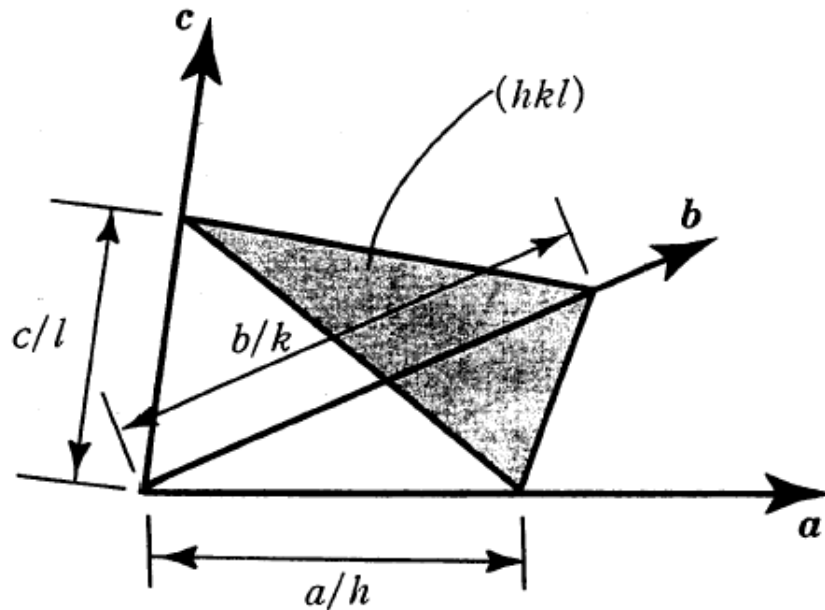
逆格子における点 (h,k,l) のベクトル

$$\mathbf{G}_{hkl} = h\mathbf{a}_1^* + k\mathbf{a}_2^* + l\mathbf{a}_3^*$$



### 3-12. 逆格子と面間隔 $d_{hkl}$

面間隔  $d_{hkl}$  : 原点から  $(hkl)$  面の距離



重要 :  $\mathbf{G}_{hkl}$  は  $(hkl)$  面の法線ベクトル

$$(\mathbf{a}_1/h - \mathbf{a}_2/k) \cdot \mathbf{G}_{hkl} = (\mathbf{a}_1/h - \mathbf{a}_2/k) \cdot (h\mathbf{a}_1^* + k\mathbf{a}_2^* + l\mathbf{a}_3^*) = 0$$

$$(\mathbf{a}_1/h - \mathbf{a}_3/l) \cdot \mathbf{G}_{hkl} = (\mathbf{a}_1/h - \mathbf{a}_3/l) \cdot (h\mathbf{a}_1^* + k\mathbf{a}_2^* + l\mathbf{a}_3^*) = 0$$

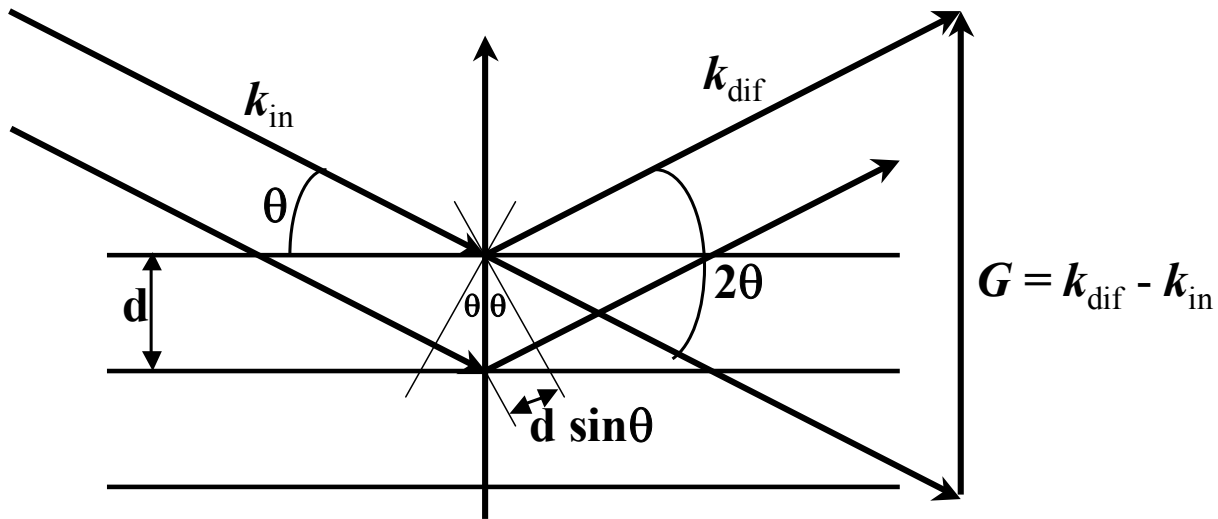
重要 :  $d_{hkl} = 1/|\mathbf{G}_{hkl}|$

$(hkl)$  面上の点 :  $\mathbf{P}$

$$d_{hkl} = |\mathbf{P}| \cos \phi, \quad \cos \phi = \frac{\mathbf{P} \cdot \mathbf{G}_{hkl}}{|\mathbf{P}| |\mathbf{G}_{hkl}|}$$

$$d_{hkl} = \frac{\mathbf{P} \cdot \mathbf{G}_{hkl}}{|\mathbf{G}_{hkl}|} = \frac{(\mathbf{a}/h) \cdot (h\mathbf{a}_1^* + k\mathbf{a}_2^* + l\mathbf{a}_3^*)}{|\mathbf{G}_{hkl}|} = \frac{1}{|\mathbf{G}_{hkl}|}$$

### 3-13. 逆格子とブラッグの回折条件



$$2d_{hkl} \sin \theta = \lambda$$

$$2 \sin \theta = \lambda G_{hkl}$$

入射 X 線の波数ベクトル  $k_{in}$  : 長さ  $2\pi/\lambda$

回折 X 線の波数ベクトル :  $k_{dif}$

散乱ベクトル :  $\mathbf{G} = k_{dif} - k_{in}$

$$G = 2|k_{in}| \sin \theta$$

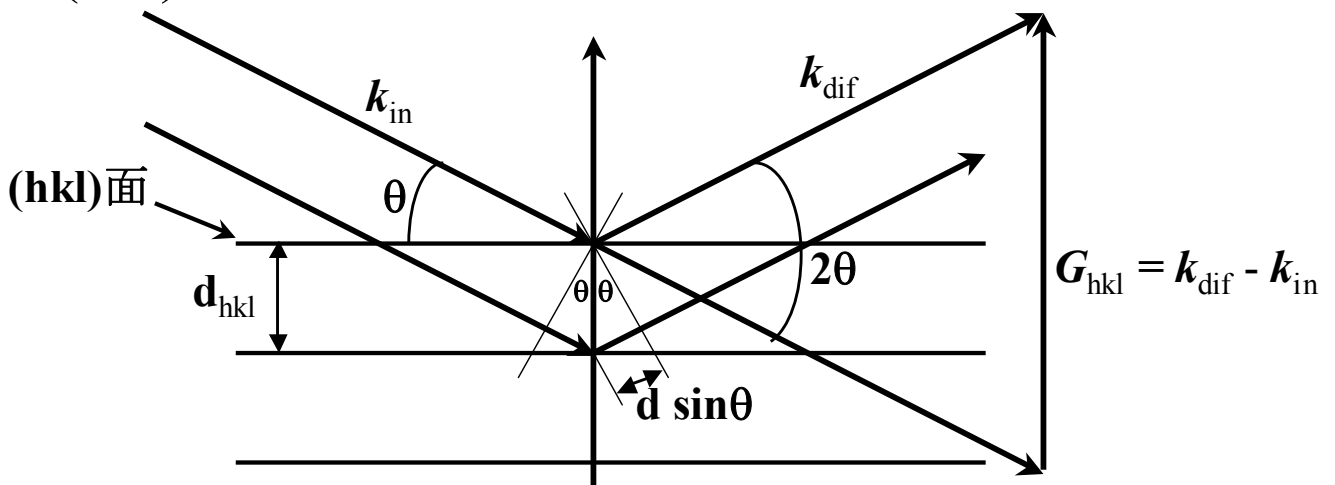
$|k_{in}| = 1/\lambda$  を使うと、

$$\lambda G = 2 \sin \theta$$

※ 散乱ベクトル  $\mathbf{G} =$  逆格子ベクトル  $\mathbf{G}_{hkl}$

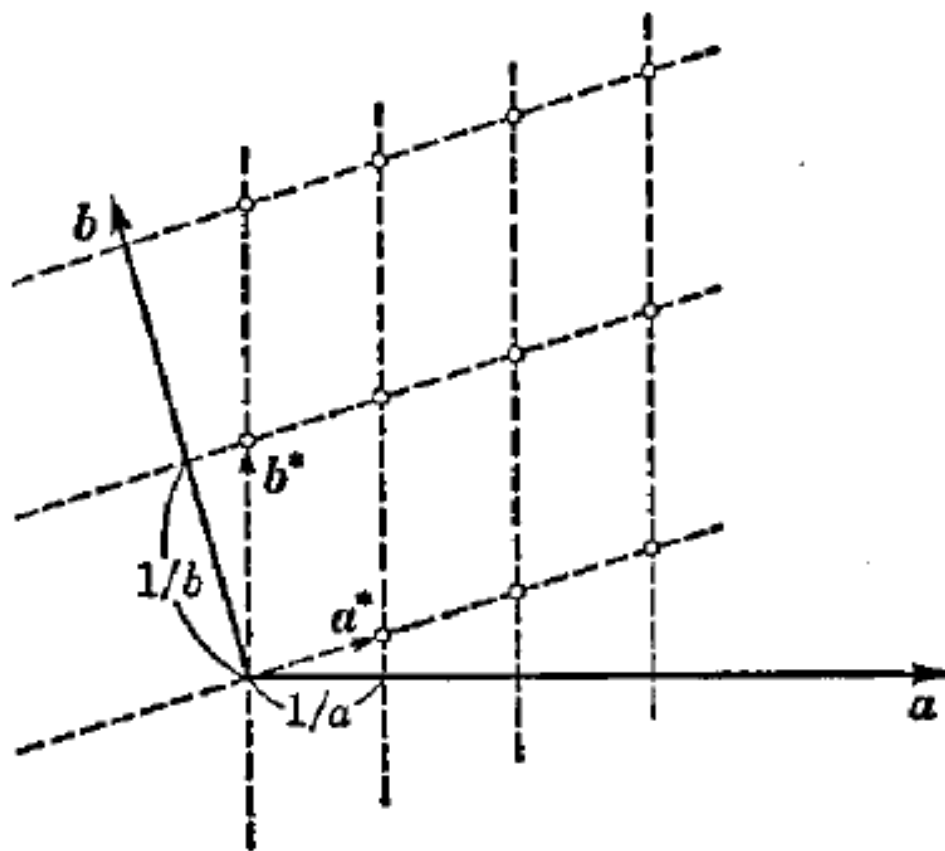
ブラッグの回折条件 :  $\mathbf{G}_{hkl} = k_{dif} - k_{in}$

※ (hkl)面が散乱面



### 3-14. Ewald の作図法

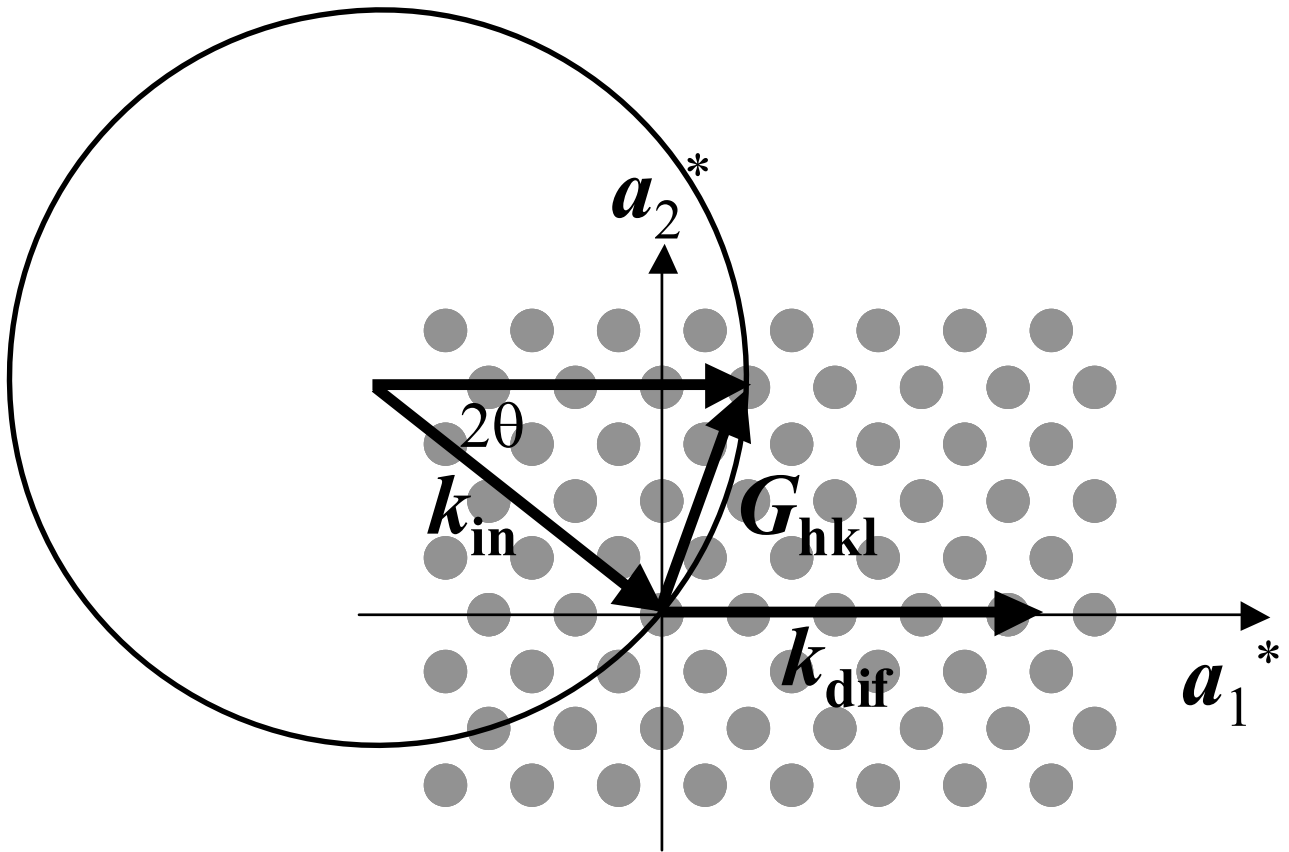
#### 逆格子の作図法



1.7-1 図 結晶格子と逆格子

#### 回折条件の作図法

1. 逆格子点（上図の●）を作図する。



2. 入射 X 線のベクトル  $\mathbf{k}_{\text{in}}$  を、その終点が逆格子点の原点に一致するように描く。
3.  $\mathbf{k}_{\text{in}}$  の始点を中心として、半径  $1/\lambda$  の球を描く。  
「Ewald 球」
4.  $\mathbf{k}_{\text{dif}}$  の始点を  $\mathbf{k}_{\text{in}}$  の始点とあわせて  $\mathbf{k}_{\text{dif}}$  を描くと、その終点は Ewald 球の表面に乗る。
5. ブラッグの回折条件  $\mathbf{G}_{\text{hkl}} = \mathbf{k}_{\text{dif}} - \mathbf{k}_{\text{in}}$  は、このようにしてとった  $\mathbf{k}_{\text{dif}}$  の終点が、いずれかの逆格子点に一致することに等価である。

## 回折線が観測されるための条件

- 1) 「試料が単結晶か多結晶か」
- 2) 「試料を固定するか回転させるか」
- 3) 「X線が単色 X線か連続 X線か」

### 1. 粉末 X線回折

異なる向きの単結晶  
単色 X線

### 2. 単結晶カメラ法（ラウエ法）

向きを固定した単結晶  
連続 X線

### 3. 4軸単結晶 X線回折装置

単結晶  
単色 X線  
回転機構を使い、単結晶を回転させる

### 3-15. まとめ：逆格子の重要な特徴

1. 逆格子の基本ベクトルは実格子の基本ベクトルに直交する。
2. 逆格子ベクトル  $\mathbf{G}_{hkl}$  は(hkl)面の法線ベクトルである。
3. (hkl)面の面間隔  $d_{hkl}$  は座標 hkl の逆格子点の距離を用いて  $1/|\mathbf{G}_{hkl}|$  と求められる。
4. ブラッグの回折条件は  $\mathbf{G}_{hkl} = \mathbf{k}_{dif} - \mathbf{k}_{in}$  と表される。入射 X 線方向と回折 X 線方向の 2 分角が  $\mathbf{G}_{hkl}$  の方向であり、回折面の法線ベクトルの向きである。
5. ブラッグの回折条件は「Ewald の作図法」によって図示できる。

実格子、逆格子における距離、角度の求め方  
実格子の任意の点  $\mathbf{r}$

$$\mathbf{r} = x_1 \mathbf{a}_1 + x_2 \mathbf{a}_2 + x_3 \mathbf{a}_3$$

その長さ

$$|\mathbf{r}|^2 = \mathbf{r} \cdot \mathbf{r} = \sum g_{ij} x_i x_j$$

$g_{ij} = \mathbf{a}_i \cdot \mathbf{a}_j$  : 計量

逆格子点の原点からの距離  $|\mathbf{G}_{hkl}|$

$$|\mathbf{G}_{hkl}|^2 = \sum S_{ij} h_i h_j = \frac{1}{d_{hkl}^2}$$

$S_{ij} = \mathbf{a}_i^* \cdot \mathbf{a}_j^*$  : 逆格子の計量テンソル

ベクトル  $\mathbf{r}$  と  $\mathbf{R}$  のなす角、つまり内積

$$\mathbf{r} \cdot \mathbf{R} = \sum g_{ij} x_i X_j$$

$S_{ij}/V^2$  が逆格子の計量テンソルに対応

$$V = abc \frac{\sqrt{1 - \cos^2 \alpha - \cos^2 \beta - \cos^2 \gamma}}{+ 2 \cos \alpha \cos \beta \cos \gamma}$$

$$a = \frac{b^* c^* \sin \alpha^*}{V^*}, \quad b = \frac{c^* a^* \sin \beta^*}{V^*},$$

$$c = \frac{a^* b^* \sin \gamma^*}{V^*}$$

$$\cos \alpha = \frac{\cos \beta^* \cos \gamma^* - \cos \alpha^*}{\sin \beta^* \sin \gamma^*}$$

$$\cos \beta = \frac{\cos \gamma^* \cos \alpha^* - \cos \beta^*}{\sin \gamma^* \sin \alpha^*}$$

$$\cos \gamma = \frac{\cos \alpha^* \cos \beta^* - \cos \gamma^*}{\sin \alpha^* \sin \beta^*}$$

$$V^* = a^* b^* c^* \frac{\sqrt{1 - \cos^2 \alpha - \cos^2 \beta - \cos^2 \gamma}}{+ 2 \cos \alpha \cos \beta \cos \gamma}$$

$$a^* = \frac{bc \sin \alpha}{V}, \quad b^* = \frac{ca \sin \beta}{V},$$

$$c^* = \frac{ab \sin \gamma}{V}$$

$$\cos \alpha^* = \frac{\cos \beta \cos \gamma - \cos \alpha}{\sin \beta \sin \gamma}$$

$$\cos \beta^* = \frac{\cos \gamma \cos \alpha - \cos \beta}{\sin \gamma \sin \alpha}$$

$$\cos \gamma^* = \frac{\cos \alpha \cos \beta - \cos \gamma}{\sin \alpha \sin \beta}$$

立方：
$$\frac{1}{d^2} = \frac{h^2 + k^2 + l^2}{a^2}$$

正方：
$$\frac{1}{d^2} = \frac{h^2 + k^2}{a^2} + \frac{l^2}{c^2}$$

六方：
$$\frac{1}{d^2} = \frac{4}{3} \left( \frac{h^2 + hk + k^2}{a^2} \right) + \frac{l^2}{c^2}$$

斜方面体：
$$\frac{1}{d^2} = \frac{(h^2 + k^2 + l^2) \sin^2 \alpha + 2(hk + kl + hl)(\cos^2 \alpha - \cos \alpha)}{a^2(1 - 3 \cos^2 \alpha + 2 \cos^3 \alpha)}$$

斜方：
$$\frac{1}{d^2} = \frac{h^2}{a^2} + \frac{k^2}{b^2} + \frac{l^2}{c^2}$$

单斜：
$$\frac{1}{d^2} = \frac{1}{\sin^2 \beta} \left( \frac{h^2}{a^2} + \frac{k^2 \sin^2 \beta}{b^2} + \frac{l^2}{c^2} - \frac{2hl \cos \beta}{ac} \right)$$

三斜：
$$\frac{1}{d^2} = \frac{1}{V^2} (S_{11}h^2 + S_{22}k^2 + S_{33}l^2 + 2S_{12}hk + 2S_{23}kl + 2S_{13}hl)$$

三斜晶の式において  $V$  = 単位格子の体積 (下式参照)

$S_{11} = b^2 c^2 \sin^2 \alpha, = a^{*2}$

$S_{22} = a^2 c^2 \sin^2 \beta, = b^{*2}$

$S_{33} = a^2 b^2 \sin^2 \gamma, = c^{*2}$

$S_{12} = abc^2 (\cos \alpha \cos \beta - \cos \gamma), = a^* b^* \cos \alpha \cos \beta - c^{*2} \cos \gamma$

$S_{23} = a^2 bc (\cos \beta \cos \gamma - \cos \alpha), = b^* c^* \cos \beta \cos \gamma - a^{*2} \cos \alpha$

$S_{13} = ab^2 c (\cos \gamma \cos \alpha - \cos \beta), = a^* c^* \cos \gamma \cos \alpha - b^{*2} \cos \beta$

$V = \frac{1}{6} abc \sqrt{1 - \cos^2 \alpha - \cos^2 \beta - \cos^2 \gamma + 2 \cos \alpha \cos \beta \cos \gamma}$

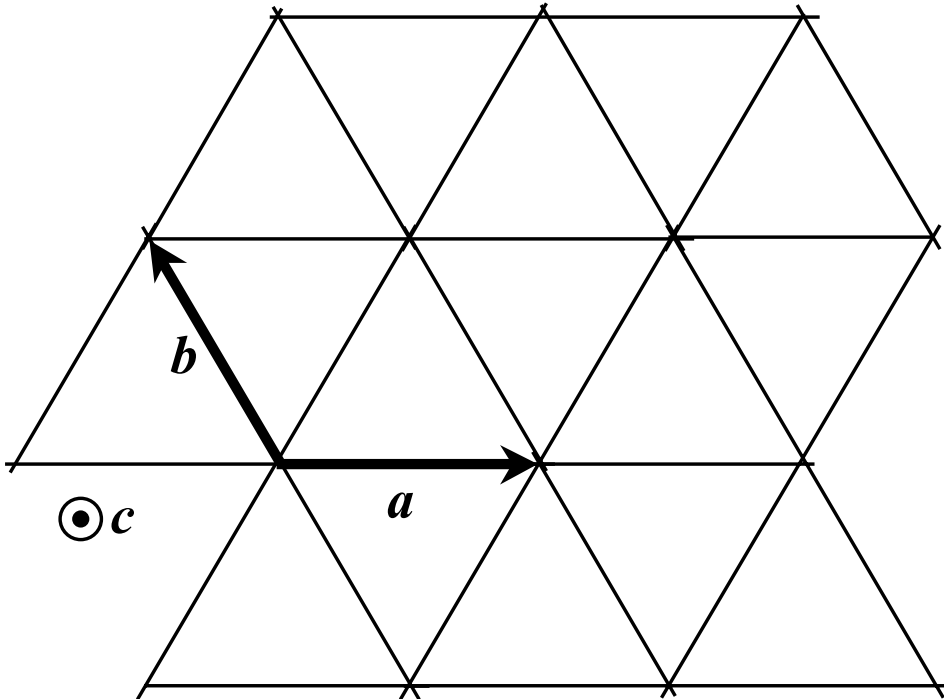
$V = \frac{1}{6} a^* b^* c^* \sqrt{1 - \cos^2 \alpha - \cos^2 \beta - \cos^2 \gamma + 2 \cos \alpha \cos \beta \cos \gamma}$



## 第8回講義 レポート課題

### 1. 次の問いに答えよ

ZnO は六方晶系に属する結晶である。下に、 $c$  軸方向から見た ZnO の格子を  $a$ - $b$  面に投影した図を示す。次の質問に答えよ。



- (ア) ZnO の逆格子ベクトルと逆格子を描け。
- (イ)  $[100]$ ベクトルと $(100)$ 面を描け。
- (ウ)  $[110]$ ベクトルと $(110)$ 面を描け。

### 2. 講義に関する質問、疑問、感想、要望など